

8. 福岡市における PM2.5 の成分組成および発生源解析

環境科学課 宇野 映介

県内保健環境研究機関合同成果発表会

平成 23 年 7 月、国において「PM2.5 の成分分析ガイドライン」が策定され、地域ごとの特色に応じた効果的な PM2.5 汚染対策を検討するため、地方自治体において成分分析を行うことが求められた。これに伴い、福岡市では平成 23 年秋季より PM2.5 の成分分析を実施している。

平成 24 年度から平成 26 年度の PM2.5 成分分析の結果、各年度ともイオン成分の割合が最も大きく、 SO_4^{2-} 、OC、 NH_4^+ の順に割合が大きかった。また、質量濃度、 NH_4^+ は春季・冬季に高く、夏季に低い傾向であり、 SO_4^{2-} は春季に、 NO_3^- は冬季に高い傾向であった。発生源解析の結果、2 次生成粒子の寄与割合が 60～70% と大部分を占め、1 次発生粒子の中では自動車排気と土壌粒子の寄与が大きいと推定された。